校長室から**ひがしなら通心**

（Ｈ２９年度）　茨木市立東奈良小学校　川上　隆　Ｎｏ．４

平成２９年４月26日（水）発行

少年キレ易くガクッと成り易し…？

「少年老い易く学成り難し」、よく耳にしますが、この言葉は、

一寸の光陰軽んずべからず

未だ覚めず池塘春草（ちとうしゅんそう）の夢

階前（かいぜん）の梧葉（ごよう）すでに秋声　　と続きます。

その意味は、「若いときはうつろいやすく、学問を成すことは難しい。僅かな時間さえも軽んじてはいけない。池のほとりの春草が萌え出る夢も覚めぬうちに、もう庭先の青桐の葉が秋の訪れを告げているのだから」です。

＜語句解説＞

池塘春草（ちとうしゅんそう）：池塘は池の堤のことで、春草は若者を暗示し、春草の夢で若い頃の夢と希望に満ちた心持を指す。

階前（かいぜん）：階段の前、庭先　　梧葉（ごよう）：青桐の葉のこと

私ぐらいの年齢になると強く実感する言葉です。

先日、テレビで「少年キレ易くガクッと成り易し」という言葉を笑いのネタにした番組を見ました。感情を抑えるのが苦手で、打たれ弱い今の子どもを言い当てたこの言葉に、笑うより先に感心してしまいました。

相手の気持ちを推し量り自分の感情を上手にコントロールできる力や、少しぐらいの辛いことや嫌なことに耐えられる力といったものは、家庭・学校・社会における豊かで適切な人眼関係の中で獲得されていくものです。

残念なことに、この大切な力を身につけられない子が増えてきていて、それには、親の溺愛や過保護・過干渉といったことが大きく関係しています。

当然ですが、子どもたちは、友だちとケンカや争いをしながら育ちます。そして、その中で「落としどころを見つけ、折り合いをつける」といった体験を繰り返し、これにより感情をコントロールする力や忍耐力を身につけていくことになります。近年、このような体験・スキル獲得の機会が少なくなっている感じを受けます。これには、同年齢・異年齢の交友関係が希薄になっていることに加え、親が、わが子の人間関係を過度に心配し干渉し過ぎることも影響しています。

また、「本人が、〇〇は苦手だと言っているのでやらせないで欲しい」「かわいそうだから、雨の日は車で送っていきたい」といった親の声を聞くことがあります。このような過保護・甘やかしは、子どもの勇気をくじき、自信を失わせるだけでなく、「困ったときには誰かが助けてくれる」、さらには、「私は助けてもらう権利がある」といった勘違いを助長することにもつながります。

親（大人）が子どものケンカや争いを冷静に見つめ、深刻ないじめにつながらないものなら自分たちで解決する経験をさせる。そして、過保護や甘やかしをしないでたくましい子にする。この二つを心がけ、お子さんを「キレ難くガクッと成り難い」少年･少女にしていきましょう。

ひ	とつにみんなでまとまろう！	あ	いさつができる子
が	くりょくと体力をのばそう！	い	っしょうけんめい勉強する子
し	っかりせいかつしよう！	う	んどうが好きな子
な	かよく友だちとすごそう！	え	がおでやさしい子
ら	んらん夢に向かう東奈良っ子！	お	そうじをがんばる子

水の事故に要注意です！

この時期に水の事故がよく起きています。

平成２４年、安威川で尊い２名の人命が失われた事故が４月２１日でした。

平成２７年、本市小学校３年生が溺れ、救急搬送された事故が４月２３日。

昨年、福知山市で川遊びをしていた中学生が亡くなる事故が４月２４日。

と、この時期に集中しています。

気温も上がり、水が恋しくなって身近な川に遊びに行くことがあるようです。ところが、気温が高くても水温が低いこの時期は、冷たい水に急につかると、筋肉が固まり体の動きが鈍くなったり、呼吸が乱れたりする「冷水反射」を起こしやすくなります。それが溺れる原因の一つとなっています。

ゴールデンウィーク中、子どもだけで川に遊びに行くことがないようにしてください。

みんなのためのルールブック

「あたりまえだけど、とても大切なこと」　ロン･クラーク　草思社

ルール３　誰かがすばらしいことをしたら、拍手をしよう

誰かがすばらしいことをしたときには、拍手をして祝福しよう。拍手は３秒間は続ける。大きな音がでるように、手のひら全体が合わさるようにたたこう。

●誰でもほめられるのが大好きだ。自分の努力がたたえられれば、ますますやる気がでてくる。誰かが何かを上手にしたら、それをほめよう。「うまいね」と言うだけでもいい。